

# シッティングバレーボールとボッチャで 社内のD&Iとコミュニケーションの 活性化を推進

東京2020大会ゴールドパートナーの野村ホールディングス。日本パラバレーボール協会のスペシャルトップパートナーとなったことを機に、パラスポーツの観戦や体験会を通じ、社内でダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の理解と普及を進めている。すでに東京2020大会後を見据え、D&Iを通じた豊かな社会の実現に向けて、この活動を一過性ではなく末永く続けるための体制を整えている。



## 野村ホールディングス株式会社



観戦会



体験会・講習会



ボランティア



協賛

### 企業情報

#### 野村ホールディングス株式会社

【担当部署】東京2020オリンピック・パラリンピック推進室  
【所属人数】9名  
【担当部署】コーポレート・シティズンシップ推進室  
【所属人数】13名  
【住所】東京都千代田区大手町二丁目1-1  
【電話】03-3278-0725(代表)  
【URL】<https://www.nomuraholdings.com/jp/tokyo2020/>



### “一生涯”スポーツのサポートを通じて、 社内のD&Iも推進



シッティングバレーボール社内体験会

社内にシッティングバレーボールの日本代表選手(当時)が在籍していたことを機に日本パラバレーボール協会にヒアリングを実施。その際、代表理事から「シッティングバレーボールは、障がいの有無も性別も年齢も関係なく楽しめるスポーツであり、その意味では“障がい者”スポーツというより“一生涯”スポーツである。」との

説明を受け、これは同社が経営戦略の一つとして掲げているD&Iの推進の考えとも重なると考え、支援を決めた。競技の社内浸透を促すため、役員のシッティングバレーボール体験会を行い、その様子を社内に発信。その後、社員の体験会参加や選手権出場を通して、「ルール次第で障がいの有無は関係なくなり、障がいは、障がい者自身ではなく取り巻く環境を作る」ことを実感し、障がいやパラスポーツを自分ゴト化してもらう良い機会となっている。

### 社内コミュニケーションのツールとして 広まったボッチャ

2017年夏に開催された企業対抗ボッチャ大会「Office de Boccia」(オリンピック・パラリンピック等経済界協議会主催)に、チーム「NOMURA」を結成し、参加したことをきっかけに、社内でも役員による体験会を実施。その後、社員向けの体験会も開催された。同社でボッチャが親しまれているのは、競技への理解が進み、その楽しさが伝わっていることもある。

また、社内コミュニケーションのあり方が従来と大きく変わってきている中で、上司と部下がコミュニケーションをとるツールとして、終業後に手軽に楽しめるボッチャにスポットライトが当たっている。



ボッチャを社内コミュニケーションツールとして活用

### 地道な活動が現在の盛り上がりにつながっている



東京2020大会に向けた応援イベント

シッティングバレーボールをD&Iの促進へ、ボッチャを社内コミュニケーションの活性化へとつなげている同社は、さらにこれらを社外へ展開していく。2018年4月にバレーボール女子日本代表チームのオフィシャルスポンサーとなったことを機に、多様なバックグラウンドを持つ人たちが一つのボールをつなぐ「バレーボール」という競技を通じてD&Iを推進し、豊かな社会の実現を応援する「Ball for All」プロジェクトを始動。また、社内でのボッチャ体験会だけでなく、2019年6月ごろから他企業ともボッチャ対抗戦を実施しており、社内外

のコミュニケーションが深まるきっかけに繋がっている。全国の支店で東京2020大会に向けた応援イベントも開催。近隣の商業施設や駐車場などの空きスペースを利用し、東京2020マスコットによる演出やオリンピック・パラリンピアン講演会とともに、ボッチャ体験会を実施している。このイベントは子どもを中心とした家族連れを対象としており、普段あまり接することの多くない地域の方々に同社を知ってもらう良い機会にもなっている。さらに、お客様向けセミナーや小・中学生向けの金融・経済教育を行う際も、会場にボッチャコート併設して体験の機会を提供し、イントラネットを通じて社内に発信。その成果を知った全国の支店から開催希望が届くようになった。

こうした取組は決して一過性のものではないと同社コーポレート・シティズンシップ推進室(当時、現・ESG推進室)園部晶子室長は力強く語る。



園部室長

「東京2020大会が閉幕しても、私たちはこの盛り上がりを持続させたいと思っています。パラスポーツと一緒に育てていきたい、そしてより豊かな社会の実現につなげていきたいと強い想いで関わっています。」(園部室長)

※本文については、2020年1月時点のものです。

### コロナ禍における取組・今後の方向性

今後も様々なパラスポーツ競技を観戦・体験する機会を増やしていくことにより、障がい者や社会的弱者への理解と支援につなげていく。引き続きパラスポーツの普及活動に尽力していく。また、コロナ禍において、パラスポーツの体験会の実施や観戦が困難な中、ポスター制作等による社内外への啓蒙活動を重点的に実施。今後、パラスポーツ大会の様子がテレビや動画配信ツールによって公開される場合は、役員員に対して積極的な観戦を促していく。